

必須項目	項目名	記入表	
基本情報	時間割コード	自動で入力済みです	
	開講区分(開講学期)	自動で入力済みです	
	曜日時間	自動で入力済みです	
	開講科目名	自動で入力済みです	
	開講科目名(英)	自動で入力済みです	
	単位数	自動で入力済みです	
	年次	自動で入力済みです	
	担当教員	自動で入力済みです	
	<input type="radio"/> 開講言語	日本語	
	<input type="radio"/> 講義題目	形態論を視野に入れた日本語音韻論	
詳細情報	<input type="radio"/> 授業の目的と概要	本授業の目的は、日本語における音韻と形態の結び付きを知ることにある。具体的には、日本語諸変種を資料として、音素、音節、モーラといった音韻論の概念を基礎から学び直しつゝ、音韻論が形態論の深化に缺くべからざる研究分野たることを知る。	
	<input type="radio"/> 学習目標	(1) 基礎: 音聲、音素、辨別的素性、音節、モーラ、アクセントといった概念の学習 (2) 発展: 交替、同化、連聲といった現象、および、自然音類、形態音素、語聲調といった概念の学習 (3) 応用: 古代日本語音素体系の推定	
	特記事項		
	授業計画(概要)		
	<input type="radio"/>	授業計画 (授業日程毎に登録) ※1登録方法は別紙参照 ※2題目は入力必須、 内容は任意	第1回 題目: 授業概要の説明 内容:
			第2回 題目: 音聲と音素の違い 内容:
			第3回 題目: 辨別的素性 内容:
			第4回 題目: 音素配列規則から探る音節構造 内容:
			第5回 題目: アクセントから見る音節とモーラの違い 内容:
			第6回 題目: 交替、同化、連聲 内容:
			第7回 題目: 交替、同化、連聲から探る自然音類 内容:
			第8回 題目: 形態音素 内容:
			第9回 題目: 語聲調規則 内容:
			第10回 題目: 受講生による用語解説演習(1) 内容:
			第11回 題目: 受講生による用語解説演習(2) 内容:
第12回 題目: 古代日本語音素体系の推定(1): 概要および母音音素 内容:			
第13回 題目: 古代日本語音素体系の推定(2): 子音音素 内容:			
第14回 題目: 古代日本語音素体系の推定(3): 半母音音素 内容:			
第15回 題目: 古代日本語音素体系の推定(4): 推定の過程および結論に関する議論 内容:			
<input type="radio"/> 授業形態	講義科目		
<input type="radio"/> 授業外における学習	用語解説資料および議論用資料の作成。 講義ではあるが、教員が学生に講義を垂れるだけのものではない。		
教科書・教材	教員が配布する資料。		
参考文献	清瀬 義三郎則府 (2013)『日本語文法体系新論』、ひつじ書房 小泉 保 (1993)『日本語教師のための言語学入門』、大修館書店 小泉 保 (1996)『音声学入門』、大学書林 服部 四郎 [1951] (1979)『新版 音韻論と正書法』、大修館書店		
<input type="radio"/> 成績評価	日々の課題およびその添削: 30点 用語解説演習: 30点 最終回の議論: 40点		
オフィスアワー	月曜日3限以降		
キーワード	音声学、音韻論、形態論、日本語、日本語音韻史		
受講生へのメッセージ			